

須郷高信氏，平成 24 年度科学技術分野 の文部科学大臣表彰受賞

本会会員の須郷高信氏（（株）環境浄化研究所社長，前日本原子力研究所高崎研究所）が，平成 24 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（技術部門）を受賞した。受賞対象の業績は「放射線グラフト重合技術を用いた環境浄化製品の開発」である。

文部科学省では，科学技術に関する研究開発，理解増進等において顕著な成果を収めた者について，科学技術賞等の各種文部科学大臣表彰を行っている。科学技術賞には，開発部門，研究部門，技術部門等がある。技術部門は，中小企業，地場産業等において，地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した者を対象としており，平成 24 年度は須郷氏を含む 14 件に授賞された。

須郷氏は放射線グラフト重合法の可能性を見出し，ライフワークとして 40 年以上研究活動に携わり，数々の顕著な業績を挙げて来た。

放射線グラフト重合法は，繊維，不織布，フィルム，多孔性中空糸膜など，さまざまな形状の高分子素材に容易に機能を付与できるという特徴を有している。須郷氏の業績により，放射線照射過程と重合反応過程を工業的に分離できるようになり，電池メーカーや水処理プラントメーカーが，放射線照射設備を保有しなくとも

電池用隔膜やイオン交換不織布などの機能素材の製造が可能となった。また，連続グラフト重合技術を確立し，大量生産も可能となり，ボタン電池用隔膜やクリーンルーム用空気清浄フィルタが事業化された。

本成果は様々な形状及び機能を有する機能性材料の創成に活かされ，海水中からの希少金属の回収，抗菌・抗ウイルス対策，高選択性の放射性セシウム除去材の提案による放射能汚染対策に寄与している。

とくに，最近では東京電力福島第一原子力発電所事故に迅速に対応し，放射線グラフト重合技術を利用して海水中のセシウムとヨウ素に対応する繊維状吸着材料の合成技術を直ちに確立し，実海域に設置する準備を進めている。大気中の放射性ヨウ素吸着膜については，マスクとして自衛隊に寄贈し，使用されたそうである。

須郷氏は放射線グラフト重合技術を利用し，積極的に社会貢献を行っている。これらの業績が高く評価され，平成 21 年度には，日本放射線化学会賞技術賞を受賞している。「くらしを変える，産業をつくる」放射線化学を具現した例と言えよう。

（日本放射線化学会 編集委員会）